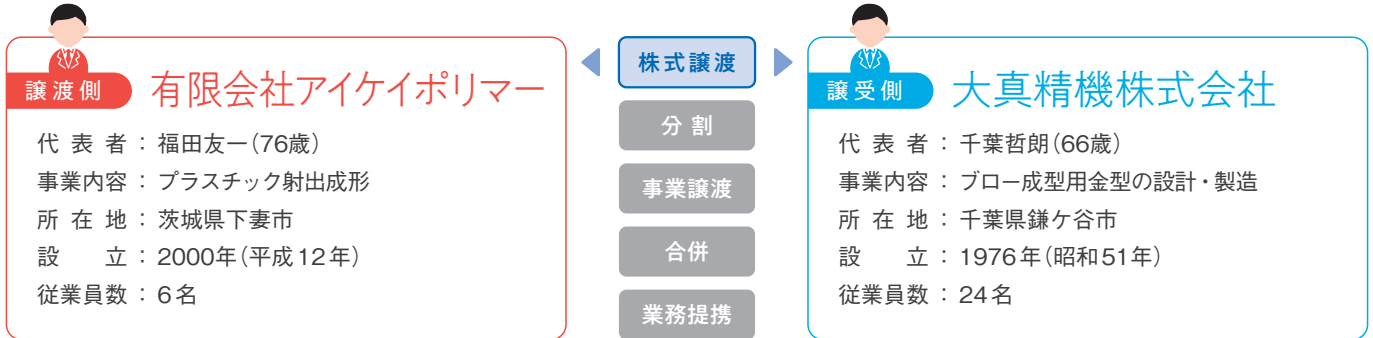


高品質と納期厳守、そして確かな技術力 高い企業価値をあえて下げることで譲渡成功に賭けた



2023年9月現在

サービス登録から株式譲渡契約締結まで



1 「絶対に不良品を出さない」。長年のこだわり

プラスチック射出成形を主に手がけるアイケイポリマーは2000年設立。埼玉県三郷市で会社を興した後、現在の茨城県下妻市に移転した。代表取締役社長の福田友一氏は「不良品ゼロ」「納期厳守」をモットーとし、取引先から厚い信頼を得ている。国際的な人気アニメのプラモデル製造も行っており、業績は好調。しかし後継者が不在のため、数年前から会社の売却を考え始めた。後々のため会社の価値をあえて下げようと、少しずつ受注を控えるように。買手候補企業が現れた際のハードルを下げようと考えたのだ。



アイケイポリマー外観。取引先からの事業継続を期待する声は大きい

2 将来に渡り事業基盤を安定させるために

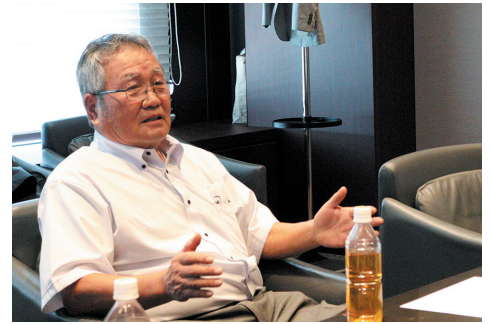
一方の大真精機は1976年の設立以来安定した経営を続けている。課題は1社の取引先による売上が大半を占めていることで、代表取締役の千葉哲朗氏はリスク回避のため2本目、3本目の柱がほしいと考えていた。M&Aでグループを形成し事業領域を広げる狙いだ。2019年から日本テクノに買受を相談。なかなか条件に合う企業に巡り合えなかったが、アイケイポリマーの情報を知るやすぐに手を挙げた。シナジーが望めるうえ財務状況もよい。最も待ち望んだ条件だった。



大真精機外観。きっかけはGIFT mapからのダイレクトメールだった

3 | 全社を挙げての熱意に心を打たれた

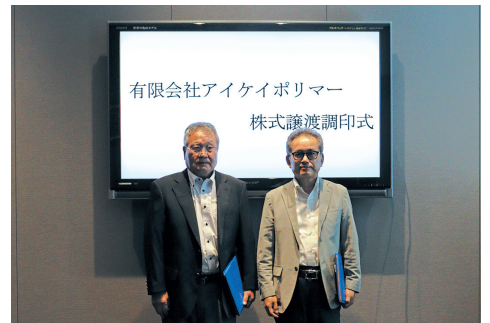
8月にトップ面談を行った後はスムーズに合意に至った。大方の合意形成が済んだ後、千葉氏は従業員たちに初めてのM&Aに臨む意思を伝えた。大真精機はブロー成形の金型製造に長い間携わってきたが、射出成形は未経験の領域だ。従業員も一丸となつての技術継承が必須となる。千葉氏は福田氏に、全員で成形を覚え、引き継ぐ覚悟であることを伝えた。「最初は不安もありましたが、大真精機の皆さんの覚悟を聞きありがたく感じています」と話す福田氏。M&A成立後、さっそく大真精機の従業員に自らの技術を伝えていく考えだ。



品質の維持には安全管理も大事な要素と語る福田氏

4 | 両社の存続、そして発展のために

今後、大真精機からアイケイポリマーへ数人ずつ派遣し、福田氏の技術を学ぶ。福田氏は最低1年間は顧問として留任。「ものづくりに完璧はありません。焦らずに取り組んでほしい」と話し、技術と共に自らのモットー「不良品ゼロ」「納期厳守」も伝えていく構えだ。千葉氏もその精神に同意しており「新しい体制で確実な品質と納期を実現できるようになるまでは、受注を控えているアイケイポリマーの仕事量で修練を積みたい。軌道に乗ってきたら、2~3年後を目途に新しい顧客を開拓していきます」と今後について計画を語った。



調印を終えるとさっそく今後の計画を協議した
(左からアイケイポリマー 福田友一氏、大真精機 千葉哲朗氏)

今回の株式譲渡成立のポイント

- Point 1 | 日常的に行き来可能な距離
- Point 2 | 大真精機の全社一丸で技術を引き継ごうという覚悟
- Point 3 | 福田氏が一代で築き上げた技術力
- Point 4 | 双方にとって人材育成と受注拡大の機会となる



本事例は動画でも
ご覧いただけます



お客さまとお客さまをつなぐ

日本テクノのビジネスマッチングサービスは「お客さまとともに新たな可能性や魅力を探していく」という目的でスタートしました。経営指標だけでは判断できない経営者の思いなど、さまざまな事情を考慮して双方の利益を最大化し、統合後の成長戦略を促進させられるよう、あらゆる可能性をともに考えていきます。



日本テクノ株式会社

日本テクノ ビジネスマッチング

<https://gift-map.jp/>



本社 営業本部 営業企画部：〒163-0651 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 51F
MAIL：support@gift-map.jp TEL：03-5909-7019

個人情報の利用目的

弊社は個人情報保護法を厳守し、事業に関するご案内の送付、お問い合わせ時の対応、およびお客さまに有益と思われる情報の提供などのために利用させていただきます。